



メディア
スタジオ

※「民話 声の図書室」とは

「みやぎ民話の会」が1975年頃から記録してきた、宮城県を中心とする民話語りの映像と音声を、せんだいメディアテークと協働し、誰もが活かせる共有財産として未来へ受け渡していこうとする活動です。これまでに制作した「伝承の語り手」による民話語りのDVDやCDは、せんだいメディアテーク 2f 映像・音響ライブラリーに配架され、閲覧・貸出が可能です。また、震災前に聞いた「浜の民話」を紹介し、民話について自由に考え語り合う「民話 ゆうわ座」の企画運営などをおこなってきました。

◆主催

「民話 声の図書室」プロジェクトチーム
せんだいメディアテーク

◆助成

一般財団法人 地域創造

◆お問い合わせ

せんだいメディアテーク 企画・活動支援室

MAIL office@smt.city.sendai.jp

TEL 022-713-4483



せんだいメディアテーク
仙台市青葉区春日町 2-1
TEL 022-713-4483
<https://www.smt.jp/>

トークネットホール仙台 (仙台市民会館)	東京エレクトロニクス ホール宮城 (宮城県民会館)	仙台市役所		宮城県庁	
		定禅寺通			
				N 08 勾当台公園	
	広瀬通				
西公園通	晩翠通	国分町通	東一番丁通	東二番丁通	愛宕上杉通
	青葉通				N 10 仙台
N 05 大町西公園			N 06 青葉通一番町		N 07 仙台

至盛岡

JR 仙台駅

この用紙はリサイクルできます

小さな ゆうわ座



— 話に遊び 輪を結び 座に集う —

海とくらしできた人たちの話

— 寒風沢島の「古げたのおぼけ」から考える —

島に生きる人たちは、海にかこまれ、つねに海のめぐみと
きびしさとともにくらしでてきました。松島湾に浮かぶ浦戸
の島々にも、代々伝えられてきた暮らしや歴史があり、そこ
に深く根付いた話があります。

浦戸の寒風沢島に伝わる民話「古げたのおぼけ」を手がかりに、暮らしのなかで語られてきた話の根を探り考えたい
と思います。

2025年2月15日(土) 13:30-15:30

せんだいメディアテーク 7f スタジオ a

◎参加無料、直接会場へ



海とくらしてきた人たちの話

— 寒風沢島の「古げたのおばけ」から考える —

今回は、塩竈市浦戸寒風沢島の土見壽郎^{つちみじゅうろう}さんの語りの映像を見ていただきます。壽郎さんは大正 14 年に島で生まれ、海で海苔や牡蠣を育て、浜に水田を開き、天水（雨水）を待ち潮時を見ながら田畑を耕してくらしてきました。2011 年の大津波により、住み慣れた家と丹精込めた水田は壊滅し、壽郎さんは島を離れて対岸の港町塩竈に移り住むことを余儀なくされました。島の暮らしと歴史にはぐくまれたその語りから、土地に根ざした民話の姿についてみなさんと考えたいと思います。

「小さなゆうわ座」の流れ

「小さなゆうわ座」について

〈解説〉小田嶋利江

語りを聞く（一）

「古下駄のお化け」

〈映像〉

土見壽郎さんと寒風沢島について

〈解説〉山田裕子

語りを聞く（二）

「慶長津波で集落が元屋敷から移る」

〈映像〉

みなさんと感想や意見の交換

語りを聞く（三）

「天水が頼りの島の米づくり／干潮を待つて田の水を排水する」

「陰田島で賭けをした若え者」

「海と暮らしてきた島で海が見えない」

〈映像〉

みなさんと感想や意見の交換

これまで〈民話 ゆうわ座〉は、よく知られた一つの民話やそこに登場するものたちをとりあげ、採訪の現場からの問いかけを、参加者とともに考えてきました。そうした民話への大きな問いを受け継ぎつつ、さらにより手元足元の小さな話にも目を向け、土地の歴史や暮らしとともにある語りに耳をかたむけたいと願い、新たに〈小さなゆうわ座〉という場をひらきます。